日に新たに 心豊かに たくましく　　令和5年11月1日（水）　第8号

南浦和中だより

〒336-0026 さいたま市南区辻 6－1－33　TEL 048(863)0753
FAX 048(836)1589　さわやか相談室直通 TEL 048(837)5909

『群青讃歌』

校　長　大河内（おおこうち）　範一（のりかず）

「万年筆〔まんねんひつ〕」を使ったことはあるだろうか。万年筆とは、ペン軸の内部にあるインクが毛細管現象（サイエンスの用語ですね）によって、溝が入ったペン先に伝わっていく筆記具である。昔は高級品という印象が強く、「大人に近づいたら使用するもの」という勝手な認識があったが、最近では、かなり安価な万年筆が販売されていて、１本数百円のものも登場している。「ちょっと使ってみようかな」と若年層でも気軽に手にすることができるようになってきたと感じている。

万年筆に強い筆圧は必要ない。力を抜いて、紙の上を滑らせるように書いていく。すらすらとなめらかに書けるので、いつもよりも文字が美しくなった気分にさせてくれる。例えるなら、フィギュアスケートで氷上を滑る羽生結弦選手のイメージに近い。（御結婚おめでとうございます。間もなくスケートシーズンが始まりますね）

万年筆はインクの色を自由に取り替えることができるのが利点なのだが、私は黒ではなく、やや青みがかった「ブルーブラック」が好みだ。インクが乾くと黒よりも柔らかく洗練された印象を与えるだけでなく、はねやはらいなどの筆跡をより美しく見せられると言われている。実に素晴らしい。また、最近ではカラフルな色も揃っていて、「ゴールデン・ブラウン」や「ミステリアス・ブルー」など、どんな色に書きあがるのか想像するだけで楽しくなってくるような名称のインクもある。これは、もはやアートの域に達していて、私にはたまらない領域になっている。

文字が上手に書けると、相手によいイメージをもってもらえるので、とても有益なことだと思っている。「文字が上達するテクニック」や「美文字のコツ」など、ヒントの類いは、本やインターネットなどで山のように出ている。その中で、まずは正しい鉛筆の持ち方を確認することが重要だと書いてあるものがあった。「人差し指は指腹で上から押し当て、鉛筆の先から２５mm あたりのところに置く。親指は人差し指より少し後ろ、中指は人差し指より前に置いて、中指の爪の根元で鉛筆をしっかりと支える」ということである。私も実際に試してみたところ、ほぼ合致していたので安心した。皆さんも、この表記に従って一度確認してみることをお勧めする。また、「文字を書く時はゆっくり丁寧に」というフレーズもあった。忙しい世の中ではあるが、心に留めて生活していきたい。

『書心画也』（しょは、しんがなり）・・・「文字は書いた人の心をそのまま反映している」という意味の四字熟語がある。皆さんも、万年筆に限らず、ぜひお気に入りの筆記具を手に入れて、真心を込めて文字を書いてほしい。そして、自分の人柄がにじみ出るような、素敵な文字が書ける人になってほしいと願っている。